

農産FAX情報 第7号

令和元年8月15日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

8月に入り、台風が立て続き発生しております。降雨日が多く、防除の適期作業が遅れることが予想されるので、早めの予防的防除に努めましょう。

1 ばれいしょ

(1) ばれいしょの収穫にあたっては試し掘りを行い、肥大状況や品質を確認してから、早めの作業準備を心がけましょう。

(2) 茎葉処理の留意点

① 薬剤による茎葉処理

(ア) 枯凋処理剤は接触剤です。茎葉全体に付着させるように散布しましょう。

散布適期は茎葉黄変期の始め～収穫10日前までです。散布は、晴れた日に行いましょう。降雨直前は、効果が落ちるので控えましょう。

(イ) 枯凋剤散布は、塊茎の肥大状況などを確認した上で使用時期に注意しましょう。

生育旺盛な茎葉黄変前や土壌が極端に乾燥している場合は、水分不足による生理障害で維管束褐変が生じやすいので散布を控えましょう。

② リーフチョッパーによる茎葉処理

(ア) 地際から10cm程度を目安に機械を調整しましょう。

刈り損じが多い場合：再処理又は手刈り等の対応が必要です。

刈り過ぎが多い場合：中心空洞や塊茎腐敗、日焼け等の発生要因となります。

※ 特に種子ばれいしょでは、ウイルス感染につながる可能性があるため、茎葉処理後に枯れ残りや再生が起きないように作業精度を高めることが重要です。

(3) 収穫作業時の留意点

① 打撲障害防止のため、ハーベスターの調整・整備を十分行いましょう。

(ア) ハーベスターの緩衝材が外れている、または劣化して固くなっていないか点検します。作業機内では塊茎を20cm以上落下させないように、クッションの使用など衝撃を軽減させましょう。

(イ) 掘取開始時や土壌が乾燥している場合は、第1コンベアへの土の上がり状況を確認し、適切な土量となるようコンベア速度等の調整を行いましょう。

② 収穫した塊茎は、直射日光下に放置していると「日焼け」症状が急速に進みます。

直ちに風通しの良い日陰に収納し風乾させましょう。保管中も同様の管理が必要です。

2 てんさい

- (1) 高温多湿が続く場合、引き続き褐斑病、葉腐病の発生に十分注意しましょう。
- (2) 低温多湿が続く場合は、斑点病の発生に注意しましょう。
※ほ場をよく観察し、予防的防除に努めましょう。
- (3) 例年8月下旬頃からヨトウガの第2世代幼虫が発生し始めます。
1回目の発生より多くなる可能性があるので、初期発生または新たな食害が見られたら直ちに防除を実施しましょう。
- (4) 雑草の抜き取り作業（種草取り）は、種子が落ちる前に実施しましょう。

3 豆 類

- (1) 各豆類は、すでに着莢時期に達しています。多湿状態が続くと菌核病・灰色かび病の発生が懸念されます。防除の際は、耐性菌の発生を防ぐためローテーション防除に努めましょう。
- (2) ほ場確認はこまめに行い、害虫の発生が見られたら直ちに防除を実施しましょう。
- (3) 散布作業は、涼しい時間帯の早朝か夕方に実施しましょう。
ヨトウガ防除の場合は、夕方から夜間に実施した方が効果が高くなります。

**トラクターでの道路走行時は、左右のブレーキ連結を確認しましょう！
熱中症に気を付け、作業は無理せず、適度な休憩と水分補給を！
農薬の適正使用に努め、生産履歴は忘れずに記帳しましょう！**